

## 2019 年度実施概要

## 学校名

糸満市立高嶺中学校

## 採択活動名

海人が活躍した糸満の海を学ぼう

## 取り組みの概要

琉球王国が成立する以前の沖縄は「三山時代」とよばれ、3つの勢力（北山・中山・南山）にわかれて覇権を争う時代があった。三山の権力者はそれぞれ明に朝貢を行うことで勢力を争った。

そのような沖縄の歴史において、本校は、南山の権力者の拠城であった「南山城跡」に建っており、海洋教育を進めるにあたって、南山の繁栄と海洋という歴史的視点を大切にしたい。

また、糸満市の発展を支えている漁業について、「船」に焦点を当て、過去から現代に至るまでの船の移り変わりについて大まかに捉える事に取り組んだ。各学年と、各教科の取り組みとして

【1年】海を学ぼう「糸満の海の歴史を学ぶ」・「サバニ乗船体験」

【2年】「舟づくり（技術の授業にて）」「リーフトレイル」

【3年】「地元の魚を活用した料理を作る」

【教科】「各教科の中で、海洋に関する授業の構成」

「南山の歴史を学ぶフィールドワーク」 令和元年6月27日（木）総合的な学習の時間（2時間）

南山時代の石垣（野面積と切石積）を見学し、南山周辺のグスクを見学した。

フィールドワークを通して、「南山の繁栄には、どのような背景があったか」について興味関心を高めることが出来た。今後の「帆掛けサバニ体験」とリンクさせて南山の繁栄と海洋について、生徒の様々な思考力を育んでいきたい。



南山の歴史について説明を聞く



南山城跡の石垣について話を聞く

「糸満の海の歴史と文化学習会」 令和元年11月6日（水）総合的な学習の時間（2時間）

糸満の帆掛けサバニの歴史、現代のゴーグルの始まりともいえるミーカガン（水中眼鏡）糸満の海の歴史について講師を招いて学習した。「サメ（方言：サバ）を取る舟（ンニ）」がサバニの由来となった事、サバニも時代とともに変化をしてきた事などについて学ぶことが出来た。



サバニの歴史について説明を聞く



糸満の海の文化について話を聞く

### 「糸満新造船所見学」 令和元年11月8日（金）総合的な学習の時間（6時間）

糸満造船所では、陸揚げされた巨大な客船について、船底から見学することが出来た。離島県である沖縄では、離島を結ぶための航路が発達している。船が漁業の為だけではない事に気付くとともに最新の船の設備等に触れる事で、既習した「サバニ」と比較して、船の進歩についても視点を得ることが出来た。



陸揚げされた客船を見学する



舟を陸揚げする「シンクロリフト」

### 「帆掛けサバニ体験」 令和元年11月8日（金）総合的な学習の時間（6時間）

糸満の伝統的な漁船であるサバニに帆をかけて進む「帆掛けサバニ」を体験した。これまでのサバニについての学習に加え、体験する事によって、海洋について生徒の様々な思考力の深まりがみられた。また「帆掛けサバニ振興会」「県立沖縄水産高等学校」の方々のサポートを頂いた。

特に沖縄水産高等学校の海洋技術科の生徒による「ロープワーク講習」は、海洋の具体的な技術に触れることが出来た。



### 「舟づくり」 令和元年11月下旬～12月 技術科の授業

プラスチック段ボールを活用し、実際に舟を作成する事で、生徒の思考力をより深める事をねらいとした。デザイン・浮力・安全性などを話し合い、形作っていく作業を通して、これまでのサバニや造船所等を見学して得た知識を活かして、より深い学びに繋がった実感がある。

作成した舟に実際に乗船してみる実験では、失敗もありながら舟をつくることの大変さと、舟で海を渡った先人の知恵に少し触れることが出来た。



舟の設計を考える



舟の組み立て



浮力実験 ①



浮力実験 ②

### 「沖縄科学技術大学院大学 (OIST) での発表」 令和元年2月2日 (土)

第4回沖縄県海洋教育・キャリア教育シンポジウムが沖縄科学技術大学院大学で開催され、これまでの海洋教育の取り組みについてまとめ発表することが出来た。学んだことをアウトプットする体験を通して、生徒自らがより「自分事」として海洋について考える機会となった。



OIST講堂



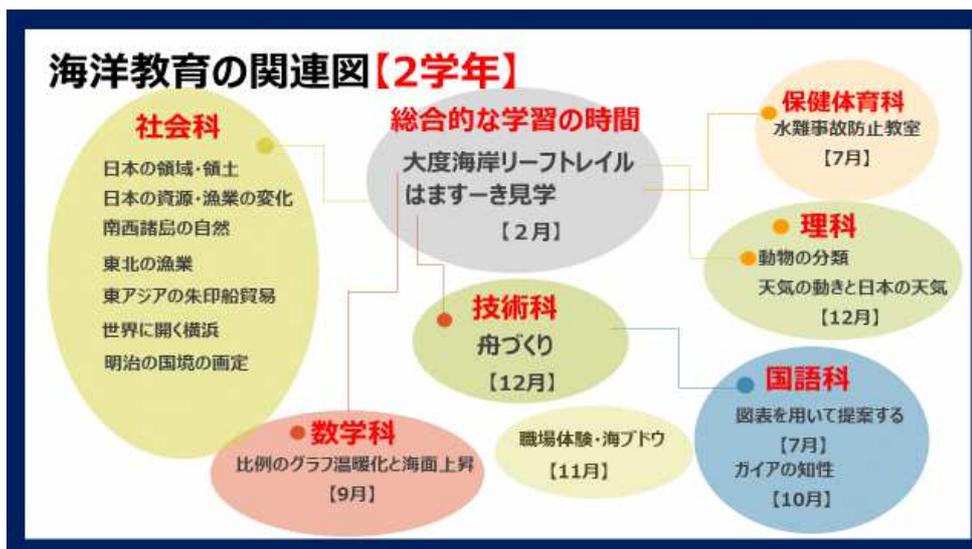
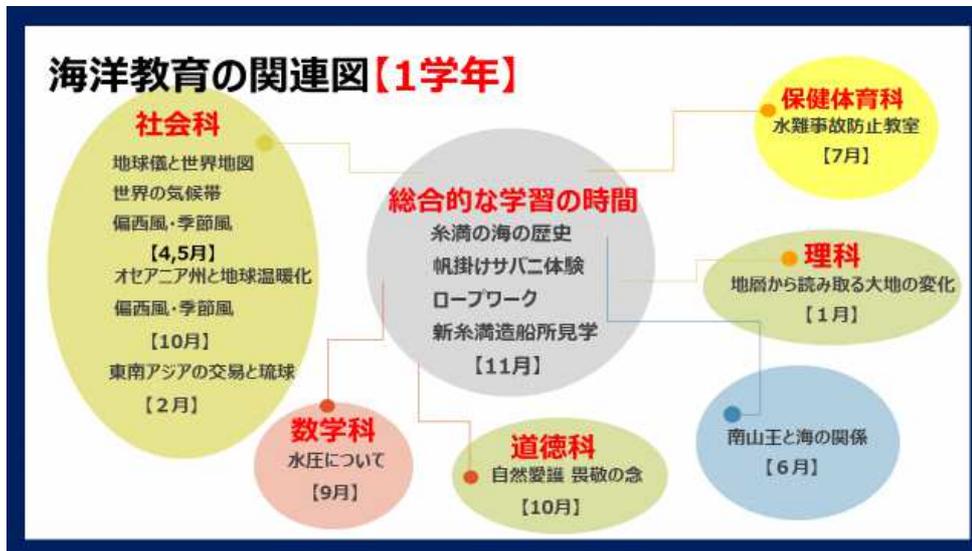
展示発表



口頭発表

## 「教科横断的な取組について」

総合的な学習の時間を軸に、各学年の教科の内容について、海洋教育という視点で関連付けた取組を行った。各教科と関連づけた取組によって、深い学びに繋がる実感がある反面、年度当初に各教科の年間指導計画を細かく調整し、効果的にリンクさせる必要性を改めて感じる事が出来た。



### 成果と課題について

海洋教育の実践において、市教育委員会を中心に海洋教育推進協議会を開催して頂いて、諸団体と連携した取組が出来た。特に、帆掛けサバニ振興会・県立沖縄水産高等学校・市観光協会のサポートで実施することが出来た。また、各教科と関連した取組を実施することが出来た。総合的な学習の時間を軸に、各教科を関連させていく事が、生徒の興味関心を高め、主体的な学びにつながっていく実感がある。

今年度は、海洋教育の取組みが「体験的な学習」にとどまってしまったことが課題ととらえている。体験を通して深い学びにつなげていくための課題設定、年間計画の見直しなどの必要性を感じている。また、当初の計画の(2年生のリーフトレイル・3年生の海の食材を用いた調理実習など)が、台風や行事などの影響で実施できなかったこともあった。

次年度に向けて、隣接している「高嶺小学校」と連携し、9年間を見通した海洋教育プログラムを構築していく事に取り組んでいきたい。また、「SDGs:」などを意識して、世界を取り巻く環境問題や、世界の課題の解決に向けて海洋教育を通じてどのように取組むか考えていきたい。

実施単元名 ※実施した単元の数に応じて記載してください

1. 総合的な学習の時間
2. 社会科
3. 理科
4. 保健体育
5. 国語科